

【2022年卒 就職活動TOPIC】 理系の学科系統別で見る“専門性への評価”の違いは？ 自身の専門性が評価されたと感じる学生の割合に差

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）のよりよい就職・採用のあり方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。文系学生に比べ就職内定率の高い理系学生について、学科系統ごとに就職活動の動向を分析しご報告します。

専門性が評価されたと感じるかどうかにより、就職活動の取り組み自体の満足度にも差



所長 増本 全

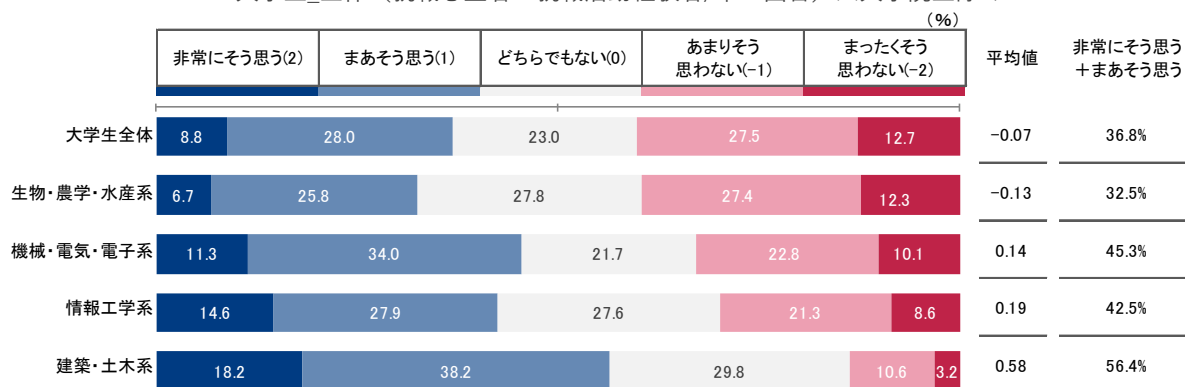
今回は2022年卒6月12日時点での理系学生の動向を「生物・農学・水産系」「機械・電気・電子系」「情報工学系」「建築・土木系」の学科系統別に分類し、調査結果を分析しました。その結果、就職活動における評価は学科系統で異なることが分かりました。自身の専門性が評価されたと感じたかについて聞くと「評価されたと感じる・計」が最も高い建築・土木系が56.4%に対し、最も低い生物・農学・水産系は32.5%でした。各学科系統別に内定取得業種を見ると、「評価されたと感じる・計」が高い建築・土木系、情報工学系は専門性を生かしやすいと思わ

れる業種が突出して高くなっているのに対して、生物・農学・水産系の内定取得先の業種には偏りが見られません。このことから、学びの領域とつながる業界や企業への応募が、選考において専門性が評価されたと認識できるコミュニケーションの有無に関わっていると考えられます。自身の専門性が評価されたと感じるかどうか別に「自身の就職活動の取り組みに満足している」を見ると、専門性を「評価されたと感じる・計」の満足度は非常に満足が26.1%なのに対して「評価されたと感じない・計」は12.9%でした。このことから自身の専門性の評価と就職活動に対する満足度は密接に関わっており、企業には、大学の授業、研究等での学びに対する評価を学生に明確に伝えていくことが、今後より求められてくると考えられます。

※「非常にそう思う」「まあそう思う」を「そう思う・計」、
「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」を「そう思わない・計」として集計

大学の授業、研究等で学んだ（得られた）専門性が、就職活動で評価されたと感じる（大学生）

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/単一回答）※大学院生除く



※平均値は「非常にそう思う」を2、「まあそう思う」を1、「どちらでもない」を0、「あまりそう思わない」を-1、「まったくそう思わない」を-2として集計

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

1. 授業や研究等で学んだ専門性が評価されたと感じるか

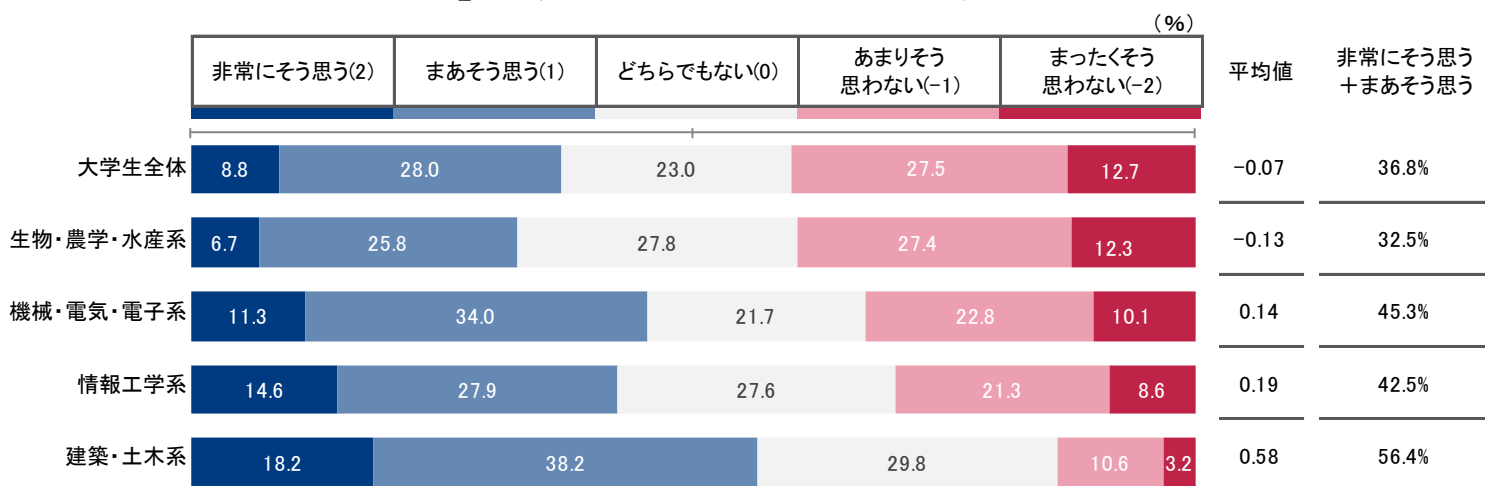
学科系統によって自身の専門性が評価されたと感じるかに差

・「大学の授業、研究等で学んだ（得られた）専門性が、就職活動で評価されたと感じる」に「非常にそう思う」「まあそう思う」と回答した学生は、大学生全体よりも生物・農学・水産系以外の理系学科系統で高く、建築・土木系が56.4%、機械・電気・電子系が45.3%、情報工学系が42.5%だった。

・平均値を見ると、大学生全体が-0.07であったのに対し、建築・土木系は0.58と他学科系統に比べ高い数値となった。

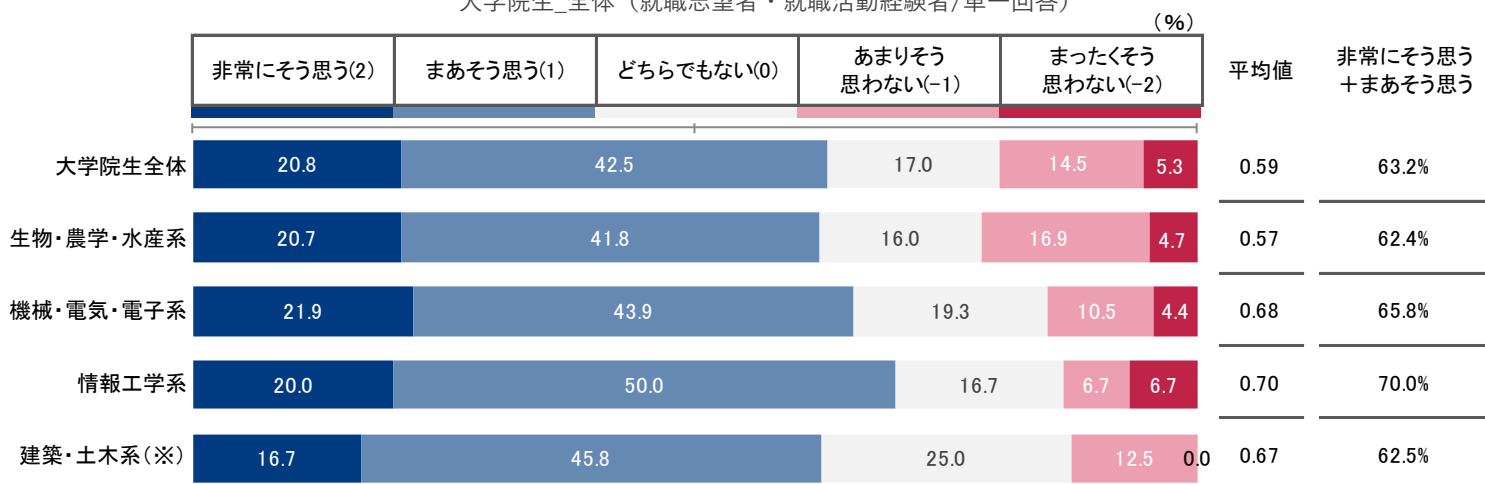
大学の授業、研究等で学んだ（得られた）専門性が、就職活動で評価されたと感じる（大学生）

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/単一回答）※大学院生除く



参考：大学や大学院の授業、研究等で学んだ（得られた）専門性が、就職活動で評価されたと感じる（大学院生）

大学院生_全体（就職志望者・就職活動経験者/単一回答）



※「建築・土木系」は集計対象数が50に満たないため、数値は参考値です
 ※平均値は「非常にそう思う」を2、「まあそう思う」を1、「どちらでもない」を0、「あまりそう思わない」を-1、「まったくそう思わない」を-2として集計

II.6月12日時点の内定取得先企業の業種と推薦応募経験の割合（大学生）

生物・農学・水産系以外は、専門性を生かしやすいと思われる業種の内定が多い

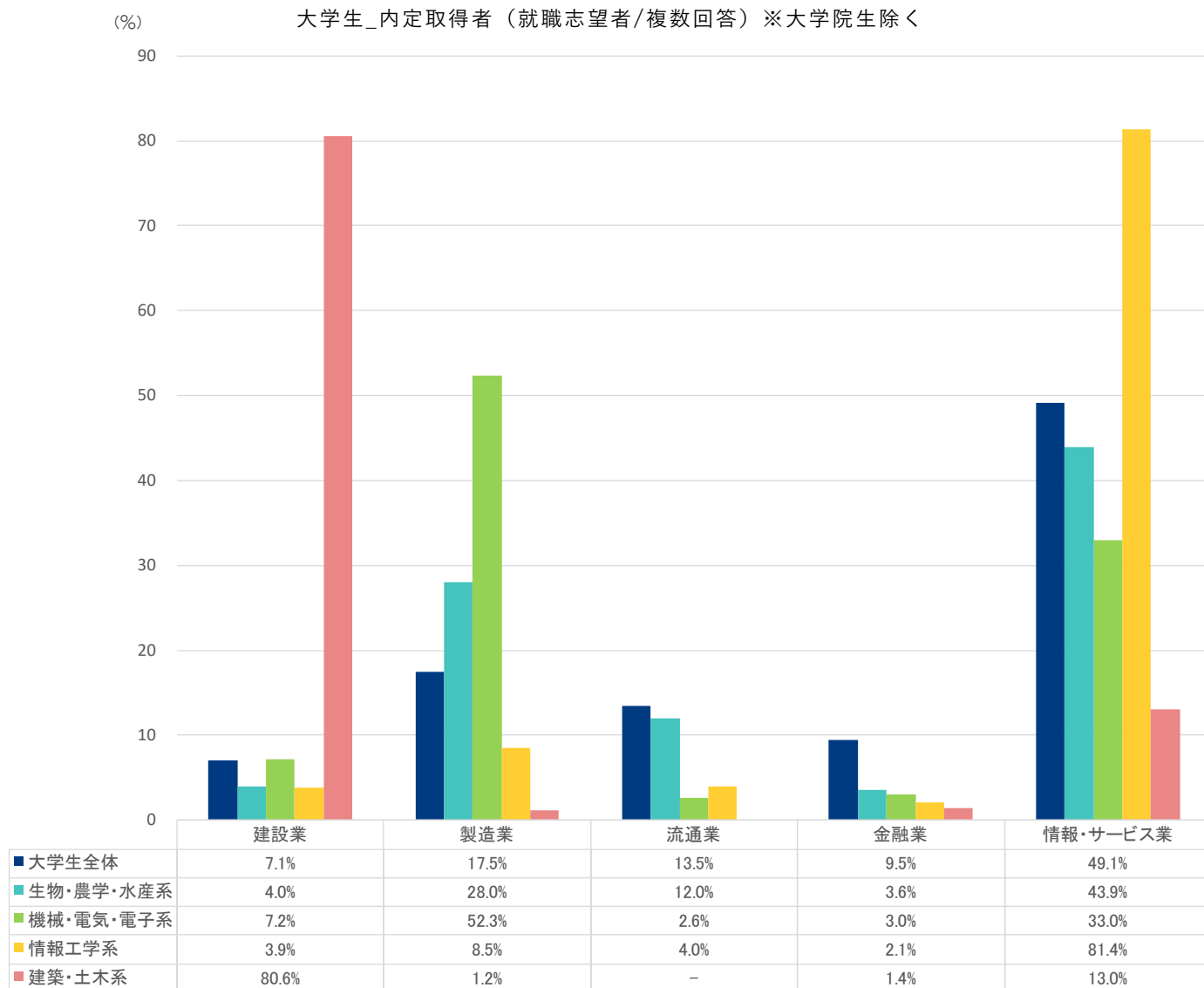
・内定取得先企業の業種は、建築・土木系は「建設業」が約8割、機械・電気・電子系は「製造業」が約5割、情報工学系は「情報・サービス業」が約8割の学生が内定を取得しており、専門性を生かしやすいと思われる業種から内定を得ていることがうかがえる。

・生物・農学・水産系は、「情報・サービス業」（43.9%）が一番高く、次いで「製造業」（28.0%）が高い。

・推薦応募経験の割合を見ると、建築・土木系（15.7%）と機械・電気・電子系（12.2%）が、大学生全体と比べても高く、推薦応募の利用が他の学科と比べて多い様子がうかがえる。

6月12日時点の内定取得先企業の業種

大学生_内定取得者（就職志望者/複数回答）※大学院生除く



6月12日時点の推薦応募経験の割合

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/複数回答）※大学院生除く

	大学生全体	生物・農学・水産系	機械・電気・電子系	情報工学系	建築・土木系
大学や先生などの推薦で各種団体等に応募した	7.2	6.5 (-0.7)	12.2 (5.0)	7.7 (0.5)	15.7 (8.5)

※表中（ ）内は大学生全体の数値との差（ポイント）

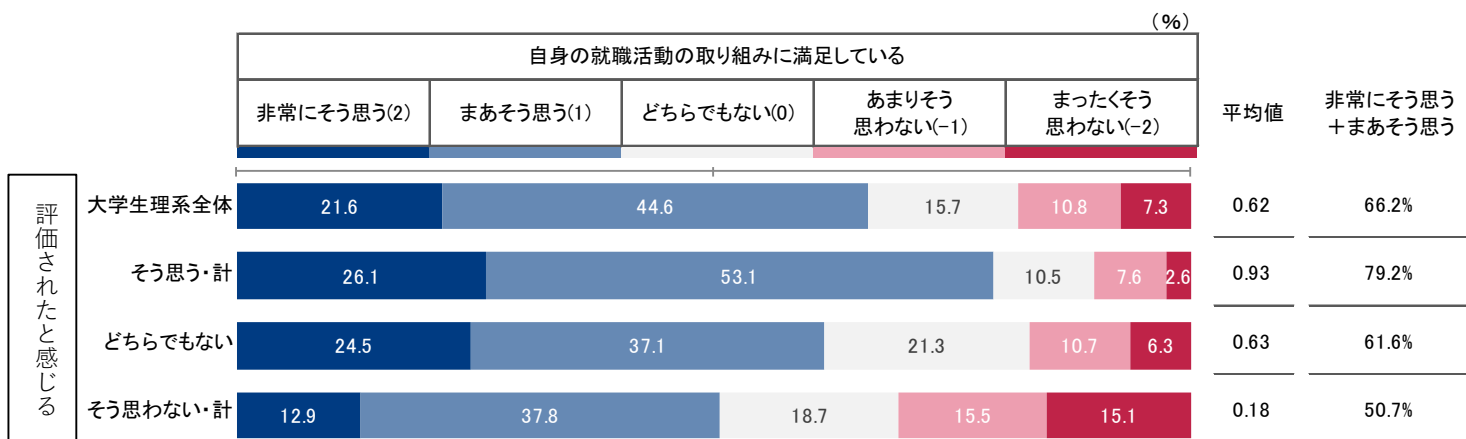
Ⅲ.理系学生の専門性への評価認識と満足度、主体的選択認識（大学生）

自身の専門性が評価されたと感じるかどうかで、満足度などに差

- ・「大学の授業、研究等で学んだ（得られた）専門性が、就職活動で評価されたと感じる」度合いによって、自身の就職活動に対する評価への回答傾向が異なる。
- ・具体的には、「自身の就職活動の取り組みに満足している」に「非常にそう思う」と回答した学生の割合は、専門性が評価されたと感じる学生（そう思う・計※1）で26.1%であったのに対し、専門性が評価されたと感じない学生（そう思わない・計※1）では12.9%だった。
- ・また、「志望業界・業種や就職先を自身で主体的に選択できていると感じる」に「非常にそう思う」と回答した学生の割合は、専門性が評価されたと感じる学生（そう思う・計※1）で41.4%であったのに対し、専門性が評価されたと感じない学生（そう思わない・計※1）では29.6%だった。

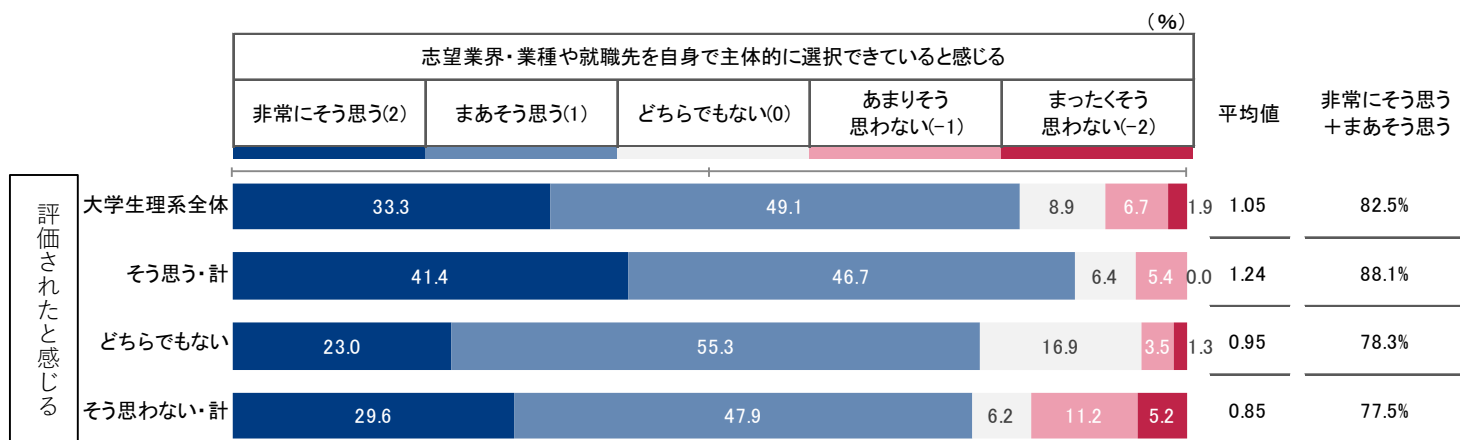
自身の就職活動の取り組みに満足している（大学生）

大学生_理系（就職志望者・就職活動経験者/単一回答）※大学院生除く



志望業界・業種や就職先を自身で主体的に選択できていると感じる（大学生）

大学生_理系（就職志望者・就職活動経験者/単一回答）※大学院生除く



※平均値は「非常にそう思う」を2、「まあそう思う」を1、「どちらでもない」を0、「あまりそう思わない」を-1、「まったくそう思わない」を-2として集計

※1「非常にそう思う」「まあそう思う」を「そう思う・計」、「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」を「そう思わない・計」として集計

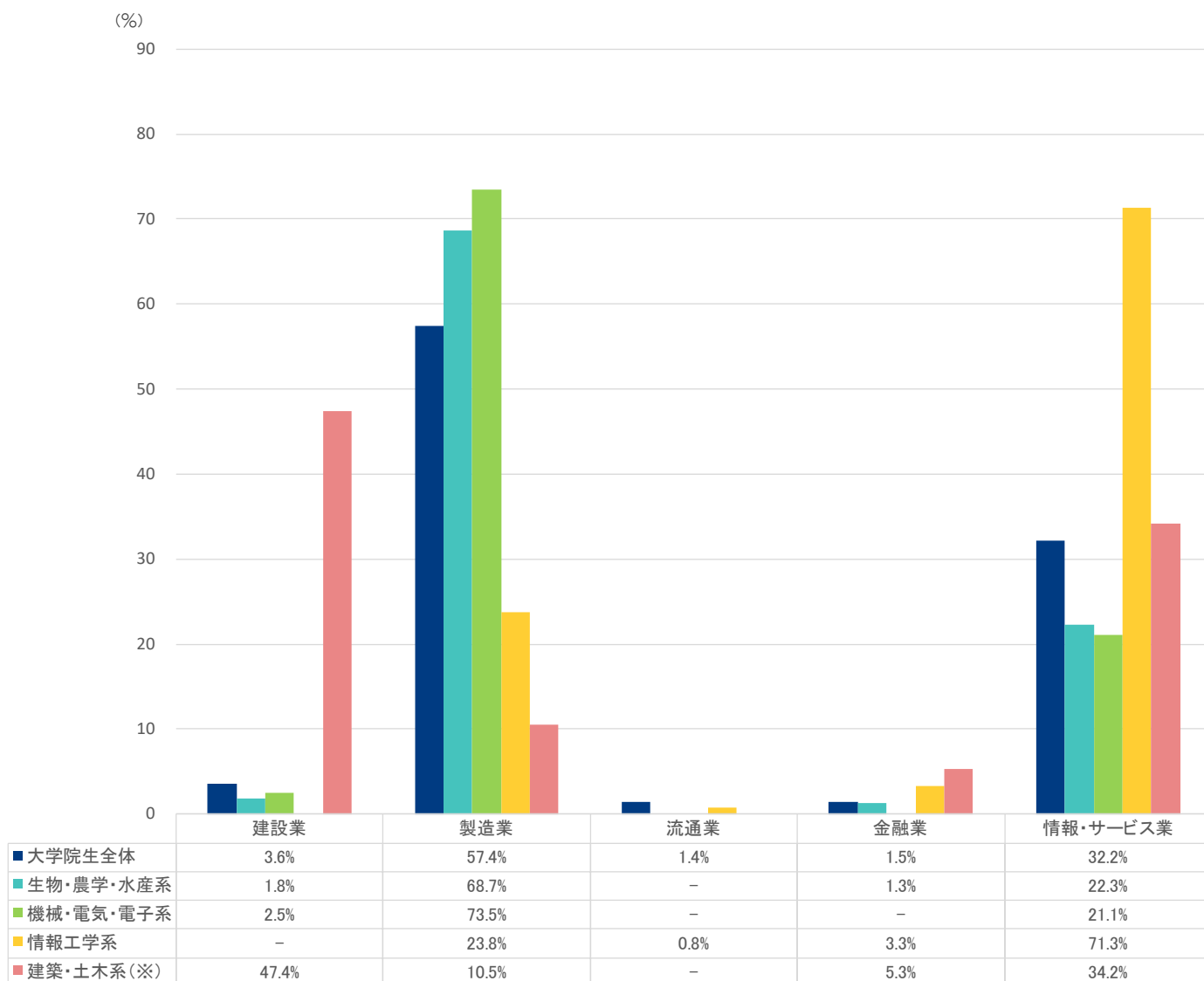
参考：6月12日時点の内定取得先企業の業種と推薦応募経験の割合（大学院生）

大学院生では、生物・農学・水産系の製造業での内定取得が高まる

- ・生物・農学・水産系は、「製造業」（68.7％）が一番高く、次いで「情報・サービス業」（22.3％）が高い。
- ・推薦応募経験の割合を見ると、機械・電気・電子系（27.2％）と情報工学系（25.0％）が、大学院生全体と比べて高い。

6月12日時点の内定取得先企業の業種

大学院生_内定取得者（就職志望者/複数回答）



6月12日時点の推薦応募経験の割合

大学院生_全体（就職志望者・就職活動経験者/複数回答）

	大学院生全体	生物・農学・水産系	機械・電気・電子系	情報工学系	建築・土木系(※)
大学や先生などの推薦で各種団体等に応募した	18.7	18.8 (0.1)	27.2 (8.5)	25.0 (6.3)	8.3 (-10.4)

※表中（）内は大学院生全体の数値との差（ポイント）

※大学院生全体との差分がマイナス10ポイント以下を青文字で表記

※「建築・土木系」は集計対象数が50に満たないため、数値は参考値です

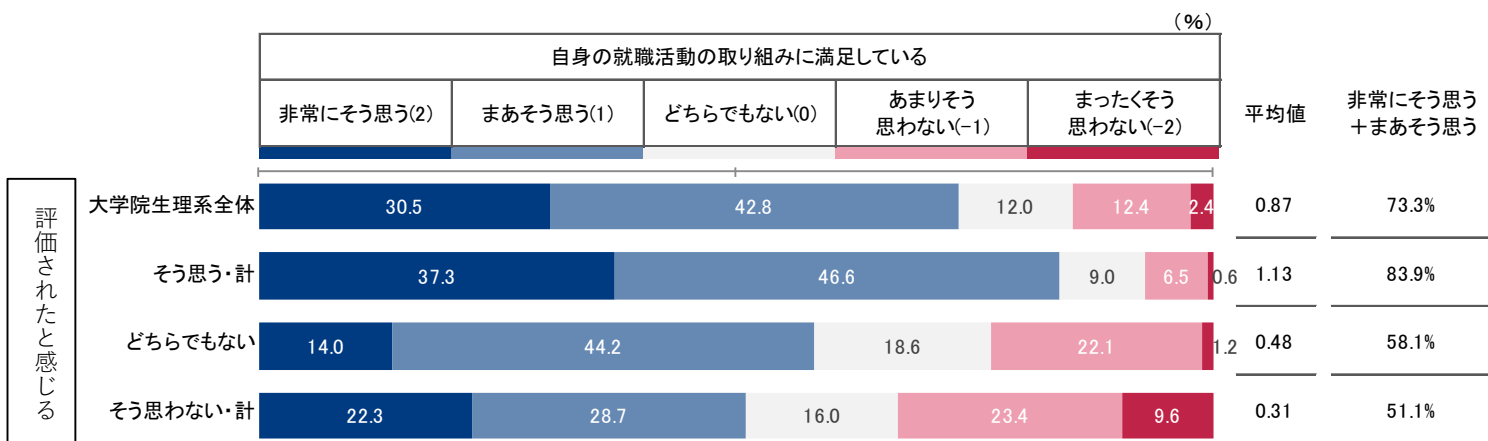
参考：理系学生の専門性への評価認識と満足度、主体的選択認識（大学院生）

自身の専門性が評価されたと感じるかどうかで、満足度などに差

- ・「大学や大学院の授業、研究等で学んだ（得られた）専門性が、就職活動で評価されたと感じる」の回答ごとに、自身の就職活動に対する評価への回答の傾向が異なる。
- ・具体的には、「自身の就職活動の取り組みに満足している」に「非常にそう思う」と回答した学生の割合は、専門性が評価されたと感じる学生（そう思う・計※1）で37.3%であったのに対し、専門性が評価されたと感じない学生（そう思わない・計※1）では22.3%だった。
- ・また、「志望業界・業種や就職先を自身で主体的に選択できていると感じる」に「非常にそう思う」と回答した学生の割合は、専門性が評価されたと感じる学生（そう思う・計※1）で41.3%であったのに対し、専門性が評価されたと感じない学生（そう思わない・計※1）では27.7%だった。

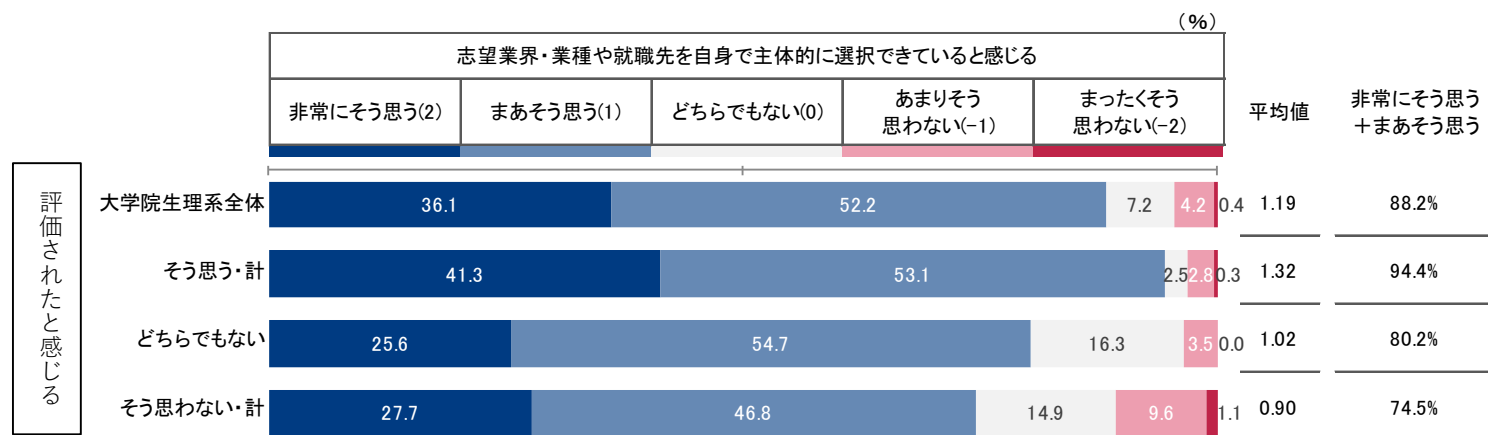
自身の就職活動の取り組みに満足している（大学院生）

大学院生_理系（就職志望者・就職活動経験者/単一回答）



志望業界・業種や就職先を自身で主体的に選択できていると感じる（大学院生）

大学院生_理系（就職志望者・就職活動経験者/単一回答）



※平均値は「非常にそう思う」を2、「まあそう思う」を1、「どちらでもない」を0、「あまりそう思わない」を-1、「まったくそう思わない」を-2として集計

※1「非常にそう思う」「まあそう思う」を「そう思う・計」、「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」を「そう思わない・計」として集計

調査概要

調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査方法 | インターネット調査

集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2022年卒：2021年6月12日時点

調査対象 | 2022年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2022』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生8,736人（内訳：大学生7,261人/大学院生1,475人）

調査期間 | 2021年6月12日～6月17日

集計対象 | 大学生 1,727人/大学院生 557人

※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2022/>

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況をもとに、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

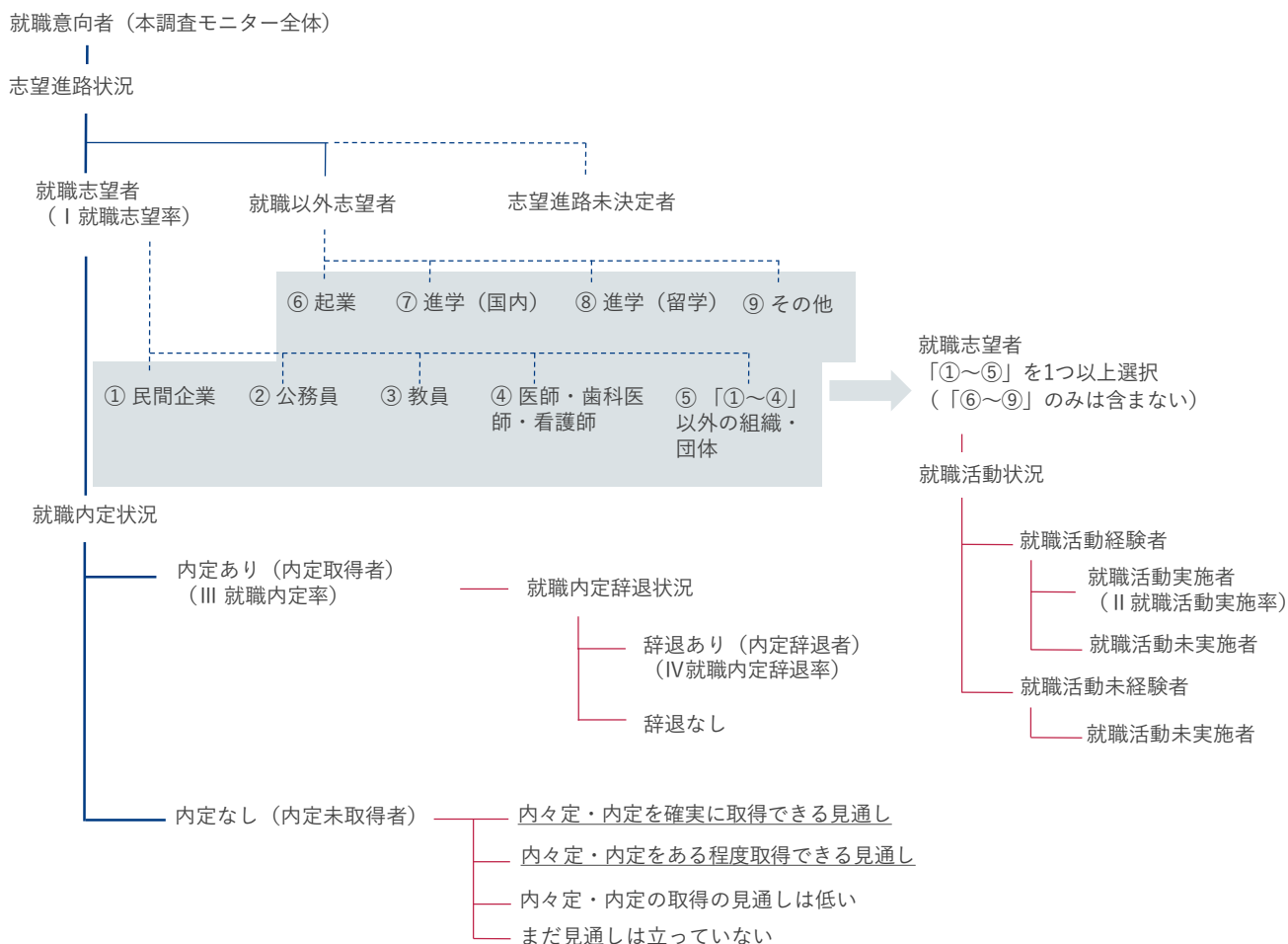
本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- 「内定率」は内定・内々定を含む。政府の要請における正式な内定日は10月1日以降である
- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- 「前回差」「前年同月差」の単位は、「ポイント」
- 本資料での「前年」とは、「2021年卒」を示す
- 大学院生のデータについては、大学生と集計方法が異なるため、参考値として掲載

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法>

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

● 就職意向者	=	当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
● 就職志望者	=	当月、就職を志望している者
● 就職活動実施者	=	当月、就職活動を実施している者 (※)
● 就職活動経験者	=	当月までに就職活動の経験がある者
● 就職内定取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がある者
● 就職内定未取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
● 進路確定期者	=	当月、進路が確定している者 進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
● 就職内定辞退者	=	当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

≪地域区分の内訳≫

○ 関東	=	東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
○ 中部	=	静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
○ 近畿	=	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
○ その他地域	=	「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者